横浜市立 上菅田中学校　学校評価報告書　（平成28～30年度）

重点取組分野	平成28年度 具体的取組	平成28年度 自己評価結果	総括
確かな学力	①校内研究授業や小中一貫教育推進ブロックの授業研で、積極的に授業公開する。 ②数学・英語でTTの授業を行い、個に応じた指導を充実させる。 ③学校図書館の活用を各教科・領域で具体的に計画し、実施する。 ④学力向上に向けた各教科の取組を情報交換する場を設ける。	学力定着の鍵は教師の授業力向上である。英語科やキャリアの浅い教員の授業研を充実させることができた。さらに授業改善へ向けた努力が必要である。英語と数学のT. T授業や英語のAETを活用した授業は、生徒の興味関心を高め、学習支援も充実した。学校図書館の活用は図書館の環境整備の充実に努めた。	B
豊かな心	①道徳の時間を充実させるとともに、規範意識を高められる集団づくりを行う。 ②悩み相談アンケートや生徒会のあいさつ運動を実施し、自己有用感・自己肯定感が持てる学級・学年・学校づくりを目指す。 ③合唱練習の取組を通じ、創造性や表現力を養い、豊かな感性や情操の醸成につなげる。	学級活動や学校行事への取組は、自己有用感や他者への思いやりや協力の気持ちを確実に高めている。規律を維持するための指導の徹底も、安心して穏やかな心で過ごせる学校づくりに欠かせない。次年度は道徳教育推進校として「道徳の時間」の一層の充実を目指したい。	A
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、体力向上に向けて生徒自ら目標を定め実践させる。 ②食に関する専門家と連携し、食について学ぶ取組を充実させる。	保健体育の授業や運動部の活動を通して、運動（スポーツ）の意義を理解し、運動や体育の授業が好きで、意欲的・主体的に取り組む生徒を育成した。小学校栄養教諭との連携体制は維持できたが、具体的な取組の充実は、次年度の課題としたい。	A
特別支援教育	①学習支援・進路適性診断・QUテスト等を活用する。 ②個別の教育支援・指導計画の充実を図る。 ③委員会での取りまとめ、職員間での共有、申し送りを徹底する。 ④特別支援計画に基づき、各指導部とも連携し目標達成を図る。	校内特別支援教育委員会の活動を軌道に乗せ、個別の教育支援計画の作成や活用の定着を目指した。特別支援教育に対する教職員の意識向上を目指して、指導主事を招聘して研修会を開催した。次年度は、より具体的な支援の手立ての研修を進め、実践につなげたい。有料の学習支援・進路適性診断・QUテストは29年度より実施	B
生徒指導	①Y-Pアセスメントの活用 ②教育相談の実施 ③学習相談の実施 ④アンケートの実施	Y－Pアセスメントの活用もふくめ、教職員は生徒一人ひとりの特性や集団の傾向をよく理解・把握し組織的に指導や支援をすすめることができた。安心して生活や学習の相談ができる生徒と教師の信頼関係が概ね築けている。 学習状況調査の際の生活・意識調査やいじめアンケート、学校評価アンケートの結果を次年度に生かす	A
教育環境整備	①職員室の情報機器を活用し、情報の共有化を図る。 ②空き教室を、キャリア学習室など多目的に活用できる環境整備を進める。	職員室のPC環境及びデータの整理分類が進み、情報の共有化、個人情報の管理がより安全・確実に行える環境が整った。空き教室も生徒の学習や諸活動に有効活用されている。使いたくなる教室の環境整備に今後も取り組みたい。	A
地域連携	①地域で生徒の健全育成に関わる方々との連携を図る。（地域ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀとの連携） ②地域活動への参加と地域清掃などの奉仕活動の推進。 ③学校・家庭・地域連携事業実行委員会の開催による地域との情報の共有化の見直し。	地域コーディネーターの活動が始まり、パン販売、カレー販売、地域学習ボランティアによる自習室開放等の実績を上げ、地域や生徒・保護者に良いイメージで認知された。次年度以降も地域との連携の進展・充実へ向けてアイデアを出し合い、地域と中学生の新しい関係づくりに取り組んでいきたい。	B
人材育成・組織運営	①メンターチームを組織し、経験の浅い教員の育成を図る。 ②外部指導者を活用し、校内研究授業・校内研修を充実させる。 ③小中交流を充実させ、生徒の学習習慣の定着や教師の授業力向上を図る。 ④校務の効率化と職員組織の見直しを行う。	教務主任や学年主任、生徒指導専任がミドルリーダーとしての責務を果たし、日常的なOJTとして若手教員の育成に当たった。校長はミドルリーダーの育成を人材育成の重点とした。外部指導者の招聘（英語科・特別支援教育）も効果的であった。適材適所・機能する組織を目指して学校運営組織の見直しも進めている。	B
ブロック内相互評価後の気付き	小中合同授業研究会や情報交換を通して、小学校の児童指導への理解が深まり、きめ細かな生徒指導をすることができる。学習面でも小学校の指導内容・方法を理解することが、中学校での教科指導に役立っている。児童生徒交流日や複数回の部活動体験を行っていることで、小学生には中学校入学への意識の高まりが感じられる。中学職員にとっても小学生と接する機会が多くあることで、生徒理解の深まりが早い。また、小学生対象の授業を行うことは、教科指導にとっても教材の選び方・発問の在り方など、授業力向上に大変有意義なものとなっている。		
学校関係者評価	学習面では小学校高学年で教科化される英語教育をはじめとして、小中の学習の連続性の重要性が増していく。中学校から小学校への授業サポート等の小中連携の強化が望まれる。地域は子供たちの将来のためのまちづくり、子供たちのふるさとになるまちづくりに取り組んでいるが、地域と中学生の交流・連携は十分とは言えず、中学生の姿や実態の把握が難しい。学校は、地域が学校や中学生を知るための工夫をしてほしい。授業参観、学校行事の時期や内容・方法、防災訓練での地域との連携のあり方、地域行事への中学生の参加促進等を検討してほしい。地域コーディネーターと		
学校経営中期取組目標振り返り	授業力の向上抜きに、「主体的・能動的な学習」や「学びの連続性」の実現は難しい。授業力向上への意欲は、現時点では教員による個人差が大きいので、学校全体としての授業改善への意識向上や具体的な取組が必要である。生徒の特性や能力、生育の環境など、生徒理解に基づく指導や支援はきめ細かく行われているが、特別支援教育に対する教員の基本的な考え方や知識に不十分な点もあるので、研修の継続と実践の積み重ねが必要である。地域の人材活用については、地域コーディネーターの力を借りながら、一歩ずつ前進・充実を目指したい。		

重点取組分野	平成29年度 具体的取組	平成29年度 自己評価結果	総括
確かな学力	①校内研究授業や小中一貫教育推進ブロックの授業研で、積極的に授業公開する。 ②数学・英語でTTの授業を行い、個に応じた指導を充実させる。 ③学校図書館の活用を各教科・領域で具体的に計画し、実施する。 ④学力向上に向けた各教科の取組を情報交換する場を設ける。	授業力向上へ向けた教員の意識は昨年度より向上し、校内の研究授業への取組も充実した。学校図書館の有効活用と新聞を活用するNIEの取組も定着し言語活動の充実につながり成果をあげた。TTの有効活用や個に応じた指導の充実は今後の課題である。	B
豊かな心	①道徳の時間を充実させるとともに、規範意識を高められる集団づくりを行う。 ②悩み相談アンケートや生徒会のあいさつ運動を実施し、自己有用感・自己肯定感が持てる学級・学年・学校づくりを目指す。 ③合唱練習の取組を通じ、創造性や表現力を養い、豊かな感性や情操の醸成につなげる。	市の道徳授業力向上推進校として1年間、研修や授業研究を積み重ねたことで、教員の道徳の授業に対する意識や技能が大きく向上した。生徒会活動や学校行事を通した、受容的で自己有用感が持てる居場所となる集団づくりや学校風土づくりはさらに前進した。	A
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、体力向上に向けて生徒自ら目標を定め実践させる。 ②食に関する専門家と連携し、食について学ぶ取組を充実させる。	保健体育の授業は、生徒の目標設定から振り返りまで計画的に授業設計がなされ、生徒の意欲や主体性を引き出した。運動部の活動にも保健体育の授業での学びが生かされている。食育に関しては大きな前進はなく、引き続き今後の課題の一つとしたい。	B
特別支援教育	①個別の教育支援・指導計画の充実を図る。 ②委員会での取りまとめ、職員間での共有、申し送りを徹底する。 ③特別支援計画に基づき、各指導部とも連携し目標達成を図る。	特別支援教育に対する意識や基本的知識が定着し、教員間の情報共有や個別の教育支援計画の作成も軌道に乗った。生徒の特性をふまえた個に応じた指導や支援の充実は、クリアすべき課題も多く、人と時間と場所の確保状況に応じて、持続可能な方策を考える必要がある。	B
生徒指導	①Y-Pアセスメントの活用 ②教育相談の実施 ③学習相談の実施 ④アンケートの実施	相談活動やアンケート等で得た情報も生徒理解の深化に生かしながら、丁寧で温かい個に応じた指導を実践した。集団の規律や秩序は概ね維持されているが、個々の事案にはセオリーの通じないケースもあり、外部機関とも連携して取り組んでいるが、生徒の不安を払拭しきれていない。	B
教育環境整備	①職員室の情報機器を活用し、情報の共有化を図る。 ②空き教室を、キャリア学習室など多目的に活用できる環境整備を進める。	空き教室を多目的室や更衣室として有効活用できている。部室棟更衣室を地域交流室に改造し次年度以降の中学生と地域の交流拠点とする準備が進んだ。教員室のひとつを特別支援教育に改造する準備も整った。水道管の直結工事が進み、念願の安心な水の確保が実現する。	A
地域連携	①地域で生徒の健全育成に関わる方々との連携を図る。（地域ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀとの連携） ②地域活動への参加と地域清掃などの奉仕活動の推進。 ③学校・家庭・地域連携事業実行委員会の開催による地域との情報の共有化の見直し。	YOSAKOIソーランの披露などを通した地域行事への協力や地域清掃などは予定通り行うことができた。地域コーディネーターとの連携は、地域交流室の開設準備等で進展はあったが、具体的活動は次年度以降となる。地域防災での連携等、優先事項を判断し持続可能な活動としたい。	B
いじめへの対応	①規律の維持と受容的で自己有用感をもてる授業づくりや集団づくりを通して未然防止に努める。 ②生徒理解の深化と共有に努めると共に、教員のいじめに対する感度を高め、常に組織的対応を徹底することで早期発見と適切な対応や支援をすすめる。（YPアセスメント、相談活動、いじめアンケートの有効活用、いじめ防止対策員会の年3回開催）	校内のいじめ防止対策委員会を毎週開催し、情報共有と対応検討を組織的に進めることができた。小さな案件にも迅速かつ適切に組織的対応をとることができた。。規律の維持と個人の特性への配慮の両立は容易ではないが、生徒理解にもとづく指導の重要性に対する意識は高まった	A
人材育成・組織運営	①メンターチームを組織し、経験の浅い教員の育成を図る。 ②外部指導者を活用し、校内研究授業・校内研修を充実させる。 ③小中交流を充実させ、生徒の学習習慣の定着や教師の授業力向上を図る。 ④校務の効率化と職員組織の見直しを行う。	道徳授業力向上推進校としての取組は、、専門教科の授業力や学級経営力向上にもつながる多くの学びがあった。主任級のみならず、次世代のミドルリーダーとなるべき人材が、積極的に校外研修や校内での若手育成に取り組んだ。また日々の指導や対応そのものが良いOJTとなった。	A
ブロック内相互評価後の気付き	今年度も小中合同授業研究会や情報交換会を通して、生徒理解が深まり、学力向上にも一定の成果を上げることができた。一方で課題を多く抱える生徒もおり、その対応に苦労した場面もあった。あらためて小中で連携した特別支援教育の重要性を感じた。個別支援計画の引継ぎをはじめ、さらに丁寧な情報交換や児童指導の理解を深め、連続性のある生徒指導を進めていく必要がある。また、小学校の道徳の授業を参観したことは、道徳授業力推進校としての取組に大きなプラスとなった。道徳に限らず小学校での指導方法を理解し発展させることは、学力向上には欠かせないことである。		
学校関係者評価	いじめを積極的に認知し、早期対応、組織的対応を行ってることは評価できる。部活動のあり方については、学校スポーツから地域スポーツへの移行の必要性を感じるが、課題も多く、移行には長い時間が必要であろう。部活休養日の設定は、子どもたちの部活離れにつながるのではないかという危惧もあるが、部活に対する考え方を根本的に変えていく発想の転換が必要ではないか。子どもたちと学校外にある子どもの個性を伸ばせる場をつなぐ役割を学校が果たすという発想も必要ではないか。中学生が地域防災で役割を果たすことの必要性と期待が大きい。中学生の地域防災への参画の具体的進展を強く望む。		
学校経営中期取組目標振り返り	道徳授業力推進校としての1年間の取組や校内授業研究の取組を通し、受容的な学級づくりや生徒の主体性を生かした授業づくりが前進した。今後は、個に応じた指導の一層の充実をはかるための指導の改善や工夫と学校評価アンケートの結果からわかる「家庭学習の習慣が定着していない」という課題に対しての働きかけの工夫が必要である。生徒の個々の特性をふまえた深い生徒理解に基づく指導や支援は浸透しつつある。地域と中学生の連携や交流については、十分とは言えない。地域防災での連携を核に具体的な進展を目指したい。		

重点取組分野	平成30年度 具体的取組	平成30年度 自己評価結果	総括
確かな学力	①校内研究授業や小中一貫教育推進ブロックの授業研を通し、授業力の向上を目指す。②学校図書館およびNIE活動の活用の一層の充実をはかり、言葉の力と思考力・表現力の向上をはかる。③ねらいが明確で見通しが持てる授業展開をはかり、生徒が主体的に課題解決に取り組む力を高める。		
豊かな心	①道徳の時間を要とした道徳教育の充実をはかる。②違いを認め合える温かい集団づくりを進め、だれもが安心して自分らしさを発揮できる授業や諸活動を通し自己肯定感を高める。③生徒会活動や学校行事の取組を通し、主体的によりよい集団づくりに取り組む姿勢と自己有用感の向上をはかる。		
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、体力向上に向けての生徒自らの目標を定め実践させる。②保健体育の授業を通し、主体的・意欲的に体力や技能の向上に取り組む生徒を育てる。③学校保健委員会や生徒会保健委員会の活動を通し、生徒の健康と安全に対する意識を高める。		
特別支援教育	①個別の教育支援計画の作成と引継を確実に行い、生徒の特性理解の深化と適切な指導・支援に役立てる。②校内研修を実施し、特別支援教育に関する知識や技能を高める。③校内特別支援教育委員会が有効に機能し、組織的支援体制の要となるようにする。④特別支援教室の整備を継続する。		
生徒指導	①YPアセスメントシート、教育相談、生徒アンケート、教員間の情報交換を通し、生徒理解の深化に努める。②生徒理解に基づく丁寧な指導と生徒・保護者との信頼関係構築に努める。③学校生活の規律の維持と生徒の特性への配慮のバランスをうまくとりながら、だれもが安心して楽しく過ごせる学校づくりをすすめる。		
教育環境整備	①特別支援教室を整備し、個別の学習支援等に有効活用できるよう環境を整える。②地域交流室の環境整備を進め、地域と中学生の連携・協働の拠点化をはかる。 ③学校図書館の環境整備をさらに進め、読書活動や課題解決のための情報収集の場としての機能を高める。④美術部との連携で、階段アートや作品展示を充実させる。		
地域連携	①長年続いている、地域でのYOSAKOIソーラン踊り披露や地域清掃の活動を継続する。②地区懇談会については、生徒も参加する新しい形を企画し実施する。③地域コーディネーターを核とした学校と地域の連携・協働を前進させる。地域防災への中学生の参画の実現を最優先課題とする。		
いじめへの対応	①いじめの未然防止のための授業づくり、集団づくりに力を入れる。②いじめを認知する感度を高め、迅速な対応につなげる。③担任や顧問など一部の教員だけで抱え込まず、必ずいじめ防止対策委員会を核とした組織的対応を進める。④全職員のいじめの防止と対応に対する知識やスキルを高めるために研修を深める。（OJTも含む）		
人材育成・組織運営	①主幹教諭が学校のトップリーダーとして管理職とともに人材育成に努める。②キャリアに応じたリーダーシップの育成、特にミドルリーダー候補となる経験7年以上の教員の育成を意識する。③経験４年未満の教員に対するサポートと研修を強化する。④学校外での研修や外部講師を招いての研修も積極的に利用し資質・能力の向上をはかる。		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り			